

富山県高P連会報

第 107 号
2012.9

編集発行
富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 毛利 一朗
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076(432)2810
FAX 076(432)1501



子どもの進路

富山県高等学校PTA連合会
会長 毛利 一朗

富山県高等学校PTA連合会は、六月の総会から、各地区の研修会、七月には富山県内各校の支援もあり、無事北信越地区高P連大会を開催できました。この場を借りて感謝申し上げます。八月下旬には、和歌山での全国大会にも多くの参加を得、暑い夏を乗り越えてきました。

また、生徒たちも、インターハイの北信越開催、全国高等学校総合文化祭の富山県開催と、大きな行事で活躍してくれました。

九月に入り、秋の風が吹くか待ち焦がれていますが、まだまだ暑い日が続いています。各校でも体育大会、文化祭等の学校行事が行われている頃だと思えます。PTA並びに生徒の皆さんのご活躍を祈念します。さて、富山県高等学校PTA連合

会の会長となり、今年、全国高等学校PTA連合会の理事に就任し、高P連の進路対策委員長を務めています。この委員会は、隔年で、リクルート社の協力を得ながら、進路についてのアンケートを行っています。北信越地区高P連大会・全国高P連大会和歌山大会に参加された方は、キャリアアゲイダンスという雑誌がその報告書です。ぜひご一読頂ければ幸いです。

進路対策委員長となって改めて考えさせられたことは、日頃から子どもと将来について話し合っていればよいのですが、現実にはなかなか話す機会がないということです。

私事になりますが、将来について子どもに話しかけても、なかなか相手にしてもらえません。ある意味

反抗期真っ盛りの時期です。子どもから相談されるまで待つしかないのかと思えますが、それまで自由にさせておけばよいのか悩むところです。中には具体的な夢を持ち、そこに向かって邁進している子どももいるかもしれませんが、就職・進学ともどこかで現実を見つめて決定する時期が来ます。その時期になって慌てることのないように、日頃から将来を考えさせることが大事なのだと思います。一番難しいのは、本人に夢を持たせることでしょう。子どもがどんな将来像・夢を持っているのか、聞き出すことができれば第一段階は成功です。その次は、夢を具体化させていくときに、保護者や先生からのアドバイスが必要になってきます。あとは本人の努力次第になってくるでしょう。

最近、進路を考える時期が早くなってきている気がします。より具体的な進路を求められているようです。もう少しゆっくり将来を考えさせてやりたいと思いますが、このはつきりしない社会状況・経済状況の中を生きていくため、夢から具体的な進路に向け、子どもと一緒に保護者も進んでいかなければなりません。

子どもたちの将来の幸せのために、先生方の協力を得ながら、できることをやっつけていこうではありませんか。

平成24年度定期総会開催

6月5日、富山電気ビルにおいて、平成24年度県高P連の定期総会が240名の参加を得て開催され、新役員が次のとおり選出されました。

顧問

大橋 聡司

会長

毛利 一朗(富山)

副会長

林 久嗣(魚津) 榊田隆一郎(富中)

北野 繁(高岡) 中田 正樹(砺波)

加藤 一郎(富中)

会計監査

開沢 憲三(桜井) 旅 昭雄(高商)

P側理事

松田 学(入善) 下田 三広(滑川)

織田 伸一(富工) 小寺 晴美(富い)

古里 博人(富南) 松嶋 浩二(高工)

塩崎 吉康(高南) 西島 宏伸(砺工)

吉澤 昇(南砺福野) 石田 清信(石動)

T側理事

筒井 慎一(魚津) 國香 正稔(上市)

山崎 弘一(富山) 中島 節治(富工)

清水 稔(富い) 清水 好勝(高岡)

池田 尚紀(高工) 伊東 与二(高商)

神田 浩(砺波) 藤田 栄(南砺福野)

西田 祐伸(高岡支援)

幹事

澤田 博芳(桜井) 国分 亮(雄山)

桐井 克二(富山) 舛崎 文雄(富工)

高岡 陽一(富い) 上田 為久(新湊)

豊本 克巳(高岡西) 宮岸 毅(氷見)

田屋 正明(石動) 松村 智(小矢部園)

永山真砂美(富懸総支) 芹川 勝(事務局)

北信越地区高P連研究大会富山大会 和をもつて響き合え！ ～みんなで広げる 共育の輪～



開会式

平成24年度北信越地区高等学校PTA連合会研究大会は、7月6日(金)7日(土)の両日、富山市芸術文化ホール(オーバード・ホール)を主会場に、北信越地区5県から約1250名が参加して開催されました。

午後1時からの開会式では、大会実行委員長の毛利一朗富山県高P連会長が「未来に向かってたくましく、心豊かに生きていく子どもたちの成長のためにPTAとして何ができるか、それぞれのPTA活動の成果を持ち寄り、悩みや不安を共有し一緒に考えて対策を考える機会となつてほしい」と述べ、三輪一朝全国高P連副会長が「私たち保護者は、子供

たちと一緒に地域活動に参画していくことで、PTAとして意識を高め、情報を共有し、子供たちを守る、育てるという観点で、活動し続けていかなければならないと感じている」と挨拶されました。

その後、北信越地区でPTA活動に功績のあった30名の表彰、富山県知事代理植出耕一副知事、富山県代理細川茂市教育次長からの祝辞、来賓紹介等があつて、開会式は終了しました。

開会式直後の歓迎アトラクションでは、富山県立南砺平高校郷土芸能部員が唄と踊りで五箇山民謡「こきりこ」や「麦屋節」などを披露し、場内観衆を魅了しました。



南砺平高校郷土芸能部



坂東眞理子 氏

午後2時30分から4会場で開催された分科会では、高校教育、生徒指導、進路指導、家庭教育とPTAの関わりをテーマに実践事例が報告され、活発な質疑応答や意見交換が行われました。

夕方には教育懇談会が名鉄トヤマホテルにて開催され、約850名の参加者は富山県を代表する民謡「越中おわら節」の唄と踊りを間近で堪能し、富山県の海の幸に舌鼓を打ちながら歓談し、懇親を深めました。

大会第二日目は午前9時30分からの記念講演で始まりました。講師は、富山県出身の昭和女子大学学長坂東眞理子氏で、「日本が必要とする21世紀人材」の演題で講演をいただきました。世界で生きていける人材となるには、端的に、具体的にオリジナリティを持って話すことが出来るコ

ミュニケーション能力が必要であるなど、日本の高校生の方について、多くの参加者に示唆を与えていただきました。

引き続き、文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程企画室室長の大金伸光氏より、来年度から高等学校で全面实施される新教育課程についての説明がありました。その後、大会宣言案の採択が行われ、閉会式では、坂井正人新潟県高P連会長から次年度新潟市での再会を呼びかける挨拶があり、最後に毛利実行委員長からの閉会挨拶で無事に閉幕しました。

▼北信越高P連表彰受賞者

西能 徹(前県高P連副会長)
瘧師富士夫(前県高P連副会長)
村上 祐(前県高P連理事)
川邊 一彦(前県高P連理事)



会場風景

第1分科会「高校教育とPTA」 教育理念の実現とPTAの関わり

富山中部高校PTA会長 榎田隆一郎

東日本大震災以降、日本のパラダイムが大きく転換したといっても過言ではなく、今まで見過ごされがちだった日本人らしき「絆」「和」などが注目されている。これからの時代を生きる高校生には、ぜひとも世界の中の日本人としての役割を自覚して生きていってほしいものです。

イマドキの高校生は、様々な角度から見ても、深刻な状況にあり、子育てが行いやすい環境にあるとはいえない。ただ、大人の本気の関わり

は必ず子供に伝わり、子供の未来は我々大人の本気のやる気に係っているとされる。

小さなことでもいい、一人一人が今できることは何かを自分の頭で考え、自分で計画し、勇気を持って本気で実践するべく、PTAとしてこれまで以上に諸行事を充実させ「子供たちの未来のために」活動していきたくと思っています。



第2分科会「進路指導とPTA」 本校の進路指導とPTA活動

高岡西高校PTA副会長 濱元与志宏

本校PTAは文化教養、部活動育成、生活指導、広報の4委員会に分かれ活動している。文化教養委員会は、進路についての研修会を開いたり、生徒と保護者に対し、意識調査を実施したりしている。

調査の結果、進路について家庭で話す頻度も高く、互いに理解し合うなど、どの学年も意識の高さをうかがうことができた。反面、進路についてのアドバイスを難しいと感じる

保護者も多かった。一方、生徒に将来就きたい職業、進路を考えたときの気持ちなどを聞いたところ、学力や将来に不安を感じている回答が半数近くあり、家庭でも将来について話し合い、夢を広げていく必要性を感じた。

今後とも調査結果を踏まえ、研修会等を充実し、保護者のニーズに応えるPTA活動を考えたい。



分科会発表要旨 (富山県発表者)

第3分科会「生徒指導とPTA」 ものづくりと人づくりの生徒指導

魚津工業高校PTA会長 富川 義之

本校は富山県東部の新川地区にある唯一の工業高校で、今年度創校50周年を迎えます。生徒は地域産業の発展を担う工業人を目指して学業に励み、資格取得や部活動に前向きに取り組んでいます。

平成17年度からインターンシップ、また平成18年度から全教職員が交代で登校指導を実施しており、遅刻の減少やあいさつを身に付けさせるなどの点で成果を上げています。

「活力ある生徒の育成を目指して」という学校課題の達成に向けて、PTAとしてどう学校と連携できるかを考え、実践していきたいと思っています。



第4分科会「家庭教育とPTA」 アンケートから見えてきたもの

砺波工業高校PTA会長 西島 宏伸

本校PTAでは、子どもの目標達成の一つとして希望の職に就くことが重要と捉え、保護者として学校とは違った目線で出来ることを探ししました。その一つとして、働くことについて親の思いを伝える、いわば家庭教育の現状を把握するためのアンケートを実施しました。

調査の結果、コミュニケーションは概ね良好に行われていました。一方で、保護者が挨拶や労働の大切さを伝える

るよう心がけ、子どもに思いやりや忍耐の気持ちを身に付けてほしいと思いつつも、実際には、家庭での手伝いなど役割分担がほとんど無い家庭が圧倒的に多く、実践されていないことが分かりました。

今後はPTAとして家庭での実践や保護者の考えを伝えるきっかけづくりを考えていきたいと思います。



共学共育

―他校のPTA活動に学ぶ―

泊高校PTA

「親子・先生の絆を深めるPTA活動」

本校PTAは、会長1名、副会長9名、監査2名および各地区からの地区委員24名から構成され、それぞれ環境委員会、広報委員会、進路委員会の3委員会に所属して特色ある活動をしています。

環境委員会の活動として、朝日地区さわやか運動に参加、祭礼巡視指導、学校保健委員会への参加があります。

さわやか運動については5、6、7、9、10月の月1回、学校の校門前と通学路2箇所PTA役員、先生、生徒で挨拶を行い、登校してくる生徒に対して元気な声での呼びかけや服装の正しい着こなし、自転車通学者に対するマナーの指導を行っています。また、朝日中学校の生徒さんとも一緒に挨拶する日もあり、町のあちらこちらで、さわやか運動がおこなわれ、泊高校が中心的な役割を果たしています。



祭礼巡視指導については、朝日町入善町、黒部市で実施される祭礼に対してPTA役員と先生と一緒に巡視し、祭りに来ている生徒に声を掛け、注意を促し指導しています。

学校保健委員会への参加については、学校で開催される保健委員会の講演会にPTA役員、会員が参加し、学校行事と連携を図っています。

広報委員会は、広報紙「PTAだより」を年2回（7月と3月）発行しています。

進路委員会は、保護者を対象に

進路見学ツアーを7月に実施しています。本年は7月4日にバス1台をチャーターし金沢工業大学と北陸大学を見学し、大学側から特色等の説明を受けました。特に北陸大学では、泊高校卒業の在學生に、大学の雰囲気や入学してからの感想などを話してもらい、保護者には大変好評でありました。



もう一つの活動として、3年に1回行われる学園祭にPTAのコーナーを設けています。前回の学園祭では、遊休品の販売をし、収益金を生徒会に寄附しました。

これからも学校と連携し、保護者の話を聞き、より良いPTA活動に取り組みたいと考えています。

泊高校PTA会長 水野 弘

富山いずみ高校PTA

「生徒を健全に育成する教育の原点は家庭にある」ことを柱にして

本校のPTA活動は、各クラスより選出された45名の役員を中心として行われています。役員会は、会長と副会長及び会計監査からなる執行部を核に開催されています。生徒指導・研修企画委員会が行事を立案・運営し、その実施状況を生徒の学校生活の様子と共に広報委員会が広報紙「しらつゆ」で全保護者に報告しています。

本校の活動は従来より「生徒を健全に育成する教育の原点は家庭にあること」を念頭に置いて活動の在り方を探り、工夫しながら実践してきました。その中でも特に継続的に行ってきた研修委員会主催の「公開授業参観」は生徒への理解を深める研修の一環として行われています。また、県内の大学・短大・専門学校を訪問する「上級学校見学」には多くの保護者が参加しています。直に施設設備を見学し教育方針などの説明を受けることは、子供の進路決定を支援する上でとても役立つとの感想を得ています。また、保護者としての資質を高めるために医師や心理カウンセラー、時には落語家やカラー



コーディネーターを招き幅広い分野の研修を行ってきました。一昨年より、家族・地域の絆こそが、子供の心身の安定を育み健全な成長をもたらすとの視点から、その「絆」を考える機会として「納棺夫日記」の作者である青木新門氏、東北EID（東日本大震災復興支援グループ）代表の川淵映子氏を招いて講演会を実施しました。そして本校では恒例となった生徒指導委員会主催による「生徒と保護者の懇談会」でも、関連して家族の「絆」を深める「親子のコミュニケーション」をテーマとしました。事前に実施したアンケート調査結果をもとに、実態を探りながら日頃途絶えがちな会話の機会を増やすにはどうすればよいか率直に意見を交わしました。また、6月と10月に行う「さわやか運動」には、本校のスローガン「あいさつでなぐ心と いい笑顔」のもと、出勤前の時間を割いて多くの保護者が参加し、生徒と共に登校する生徒を迎えています。

今後とも常に家庭と学校が共通理解を図りながら、親と子が共に学びの機会とできるような取り組みを進めていきたいと思っています。



富山いずみ高校PTA会長

小寺 晴美

高岡支援学校PTTA

「支援学校におけるPTTA活動」

本校には、小学部、中学部、高等部があります。また、寄宿舎を併設しています。PTTA役員の構成は会長・副会長（各学部若干名）・書記・会計・監事2名と各委員会委員長からなっています。委員会は、現在7つあります。各学部各学年から選出された委員は、地区・寄宿舎・総務・保健・広報・文化研修・進路の各委員会に所属します。

地区委員会は「親と子の集い」等の計画・実行、寄宿舎委員会が入舎の生徒を中心とした「ひまわり祭」を担当します。総務委員会は資源回収や運動会の協力、保健委員会はヘルマーク等を担当します。広報委員会は「PTTAだより」の発行、文化研修委員会は福祉作業施設等の見学を行い、進路委員会は福祉サービス

の現状を知るために施設の方に講演を依頼するなどの取り組みを行っています。



本校のPTTA活動は、親と子のふれあいを大切にしていた活動、二つ目には子どもの将来にむけての取り組み、三つ目には学校行事の参加・協力を目的としています。今年度は「親子ボウリング大会」を催しました。小学部から高等部までの親子が参加し、一投一投に大きな歓声が沸き上がっていました。恒例の納涼祭では手品やチンドンの演奏、3B体操等を披露してもらい、模擬店では「おやじの会」が作る焼きそば等を販売し、また輪投げ等のゲームを行いました。各委員は企画・準備・販売等を先生方と協力して行っています。秋の学習発表会ではバザーを各委員が担当します。



私たちは障害のある子どもとその保護者です。こだわりが強く、急な変化に弱い、そして、コミュニケーションが上手ではない子どもたちをきちんと受けとめることができなければなりません。子どもの将来と支援の在り方、法改正による制度の変更等を学ぶ機会をPTTA活動で提供

します。障害者の社会参加と合理的配慮は豊かな社会に必須なものです。高等部では「働く力」「生活する力」を育む教育が行われます。子どもの成長を見守りつづけ、保護者も負うた子に教えられながら活動を続けていくことが大切だと思っています。

高岡支援学校PTTA会長

宇於崎 俊陽

新川区指導者研修会

日時 6月19日(火)

会場 魚津高等学校

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTTA

上市高校 佐藤好久会長

第2分科会 進路指導とPTTA

入善高校 松田 学会長

第3分科会 生活指導とPTTA

魚津工業高校 富川義之会長

講演 「立山に見えられた氷河

―立山の雪を探る―

立山カルデラ砂防博物館

学芸課長 飯田 肇 氏

富山地区指導者研修会

日時 6月29日(金)

会場 富山高等学校

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTTA

富山中部高校 榎田隆一郎会長

第2分科会 進路指導とPTTA

富山東高校 藤田淳一会長

第3分科会 生活指導とPTTA

富山工業高校 織田伸一会長

第4分科会 家庭教育とPTTA

富山いずみ高校 小寺晴美会長

講演 「Science, Art&Humanity」

富山大学学長 遠藤俊郎 氏

高岡地区指導者研修会

日時 6月13日(水)

会場 ウィング・ウィング高岡

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTTA

伏木高校 柴田成人会長

第2分科会 進路指導とPTTA

福岡高校 松原吉孝会長

第3分科会 生活指導とPTTA

高岡南高校 塩崎吉康会長

第4分科会 家庭教育とPTTA

氷見高校 圓山留美副会長

講演 「日本海『みなとまち』づく

りへの挑戦〜新湊内川

沿いの人々とともに〜」

元富山大学教授・富山商船高専

名誉教授 雨宮洋司 氏

砺波地区指導者研修会

日時 6月20日(水)

会場 小矢部市総合会館

分科会と発表校

第1分科会 高校教育とPTTA

となみ野高校 沖田 功会長

第2分科会 進路指導とPTTA

南砺福光高校 日西孝明会長

第3分科会 生徒指導とPTTA

砺波高校 中田正樹会長

講演 「自然と共に生きる」

スミヤキスト 美谷克己 氏

第62回全国高P連大会 和歌山大会

「和をもつて響き合え！〜つれもて広げる 共育の輪〜」をテーマに第62回全国高P連大会和歌山大会が8月23日、24日の両日、「和歌山ビッグホエール」を中心に開催されました。全国から約1万人が、富山県からは118名参加しました。一日目は高校生による吹奏楽演奏の後、開会式が行われ相川順子全国高P連会長による式辞、合田隆史文科省生涯学習政策局社会教育課長、西下博通和歌山県教育長などの祝辞があり、その後、表彰式が行われました。

続いて、高校生による和太鼓の演奏や少林寺の演技の後、宇宙航空研究開発機構教授の川口淳一郎氏より『「はやぶさ」が挑んだ人類初の往復の宇宙旅行、その7年間の歩み』と題する基調講演が行われました。川口氏より、「はやぶさは、その飛行中、数々の故障や困難に直面しましたが、プロジェクトのメンバー全員がよくそのミッション目的を共有し、そして高いモチベーションをもって率先してとり組み、このことが地球帰還の成功へとつながりました。」と話されました。

二日目は、分科会（4分科会・2特別分科会）が和歌山ビッグウェーブなどで開催されました。第四分科会では、砺波工業高校PTA会長の西島宏伸氏が「家庭教育とPTAアンケートから見えてきたもの」と題し、家庭教育の現状を

把握するために行ったアンケート結果を紹介し、その考察を発表されました。閉会式では、次年度開催県である山口県より挨拶があり、閉会となりました。



アトラクション(紀北農芸高校 和太鼓部)



砺波工業高校PTA会長 西島宏伸 氏の発表

参加者の声

・残暑厳しい中、全国から一人の関係者が和歌山ビッグホエールに集い、基調講演や分科会が2日間に渡り開催されました。基調講演では、「はやぶさ」プロジェクトマネージャーであった川口淳一郎氏が、人類初の小惑星からサンプルリターンをした「はやぶさ」の7年間の軌跡や過去に経験がない人類初をやるには天の邪鬼的思考が必要であるなど、名格言を交えてわかり易くコミカルに話されているのが印象的でした。

また、今勉強している事は、過去の模倣でしかない。百点満点を取るための学びのプロ集団では成し得なかつた事など、凡人には目から鱗が落ちるようでした。分科会では、パネルディスカッションでいろいろな立場の方の意見を聞くことができ、PTA活動の在り方について考えさせられました。

上市高校PTA会長 佐藤 好久

参加者の声

・子どもも大人も共に育つ社会をめざして私たちができる事、やるべき事は何か。真剣に取り組んでいく場にしたいの趣旨のもと、和歌山ビッグホエールをメイン会場とし、全国から約1万人が集結し、初日は高校生の吹奏楽に始まり開会式が盛大に行われました。昼食休憩中、高校生による和太鼓・少林寺演武・箏曲を堪能しました。基調講演では、和歌山大学観光学部教授の尾久土正己氏が大学

に宇宙教育研究所を立ち上げ、はやぶさをサポートしたことを話されました。また、尾久土氏が制作した実写とCGを交えたDVDを大変楽しく鑑賞しました。

続いて「はやぶさ」プロジェクトマネージャーを務めた川口淳一郎氏の基調講演が行われました。「はやぶさ」が宇宙で数々のトラブルや困難に直面しながらも小惑星「イトカワ」と地球を7年間かけて帰還を果たした中で得る事の出来た教訓として、新しいことを始めるには「ルールや規制をまず外してみる」また「高い塔を建てなければ、新しい水平線が見えてこない」など目線の高さやリーダーは周りを引っ張っていく事が大切であると話されていたのが印象的でした。

二日目に参加した第1分科会では、各校の特色ある活動を聞くことができ、大変参考になりました。

高岡商業高校PTA会長 旅 昭雄

▼全国高P連大会会長表彰

- 水橋高校PTA
- 高岡工業高校PTA
- 個人 千田記也(前県高P連副会長)
- 江西照康(前県高P連副会長)

編集後記

今年の夏は戦後3番目の猛暑だったのですが、違う意味で今年の富山県は熱かったのではないのでしょうか。北信越地区高P連大会、全国高総文祭が開催され、大成功のうちに閉会しました。富山の魅力を知っていただき、多くの情報発信をする絶好の機会でありました。

(公報編集委員長 松田 学)